

## 1. 評価結果概要表

作成日 2008年1月25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0874400351
法人名	有限会社 モデンナ・ケアサービス
事業所名	グループホーム 響
所在地 (電話番号)	茨城県北相馬郡利根町横須賀147 (電話)0297-61-8500

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県取手市井野台4-9-3 D101		
訪問調査日	平成20年1月22日	評価確定日	平成20年5月12日

## 【情報提供票より】(19年12月20日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 10 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 4.3 人	

## (2)建物概要

建物形態	併設/ <del>単独</del>	新築/改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階 建ての	1 階部分 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	28,350 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1050 円	

## (4)利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名		
要介護3	9 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	69 歳	最高	101 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	朝野循環器科クリニック 菊池整形外科 菊池歯科医院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路沿いの広い敷地の中にデイサービス、ショートステイサービスを併設した複合施設の一角にホームがある。玄関には季節の飾りがあり、お香の香りが来客を迎えてくれる。時には近隣の小学校児童・生徒が体験学習に訪れ、明るい声が行き交い、秋にはホーム主催のお祭りが開かれ、近隣の方々が多数集う。家族等の来所も頻繁にあり、様々な触れ合いの中で過ごす利用者の表情は明るく穏やかである。平屋建ての2つのユニットは中庭や廊下を通じていつでも行き来することができる。リビングから眺める中庭の風景からも季節感を感じ取ることができ、ゆったりとした居心地の良い空間となっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果についてホーム内で十分に話し合っている。、食事時間には可能な限り職員も利用者と同じ時間に同じ食卓につくよう試みたり、また、事故の報告と活用についても報告書の書式の見直し、事故検討委員会の設置など積極的に改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員の意見を取り入れながら管理者が記入している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者やホームの状況を報告すると共に、家族からの意見を積極的に取り入れ、ケアの見直しや改善に生かしている。外部評価の結果についてもその意義や内容を含めて詳しく報告されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見や不安を意見箱や苦情窓口に表せるよう配慮している。また出来るだけ直接伝えてもらえるように、ホーム側から積極的にコミュニケーションをとるように努めている。家族からの意見や要望はミーティング等で話し合い迅速に対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会に入っており、様々な活動に可能な限り参加している。ホーム主催の秋祭りには、近隣の住民やボランティア等が多数参加し賑わっている。近隣の小中学校の校外学習の場としてもホームをはじめ併設の施設を開放しており、複合施設全体が地域との連携を図っている。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自に作り上げた理念がある。理念の中で直接地域との関わりについて触れているわけではないが、利用者が毎日安心して快適に暮らせるよう日々のサービスを提供していくことを意識しており、自然と常に地域密着を念頭においてのサービスが心掛けられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ全員が名札の裏に理念を記入したカードを携帯している。また、事務所、玄関、リビング等にも掲示しており、常に目を通して見ている。申し送り時にも唱和するなどして意識し、日々のケアに活かされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域のゴミ掃除等に職員が参加している。利用者は車いすの利用者も多く、自治会の活動にはなかなか参加できないが、その分、地域ボランティアに訪問してもらい定期的に交流を持っている。また、近隣の小・中学校の体験学習としてホームを提供したり、ホームで開催する法人合同の秋祭りでも地域住民との交流が盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果に対してはホーム全体で結果の検証と改善案の検討を行い、ホーム内での実践、或いは法人単位での書式の見直しなどを積極的に進めている。今回の自己評価について事前のミーティングは行われなかったが、必要に応じて管理者が職員の意見を取り入れながら記入されている。		前回の結果についてホーム内の職員全員で話し合い、日々のケアに生かすよう努力しているホームの姿勢がうかがえる。また、職員は評価の意義と活用についても十分に理解していると感じた。次回の評価では、自己評価の記入についても事前に職員全員でミーティングを重ねることで、ますます全員の意識が高まっていくと思われるので期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	半年に一度の頻度で行われている。行事を絡めた食事会の後に行うなど、メンバー同士の交流が円滑になるよう工夫して企画されている。利用者の状況やホームの活動状況などを報告すると共に家族やメンバーからの意見を聞き、見直しや改善の参考にしている。また、外部評価結果も議題にし、話し合いが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月行政の職員が利根町の利用者について意見を聞きに来所している。市町村との連携が密に取れるよう、ホームから積極的に市町村への働きかけを行っている。行政の主催する研修にも積極的に参加し、コミュニケーションをとる機会として活用されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のお便りで利用者の暮らしぶりが報告されている。合わせて金銭の報告も行っている。その他にも暮らしぶりや健康状況に変化があった時は連絡が行われている。普段から家族の来所も多く、会話も頻繁なようである。職員の異動については家族からの希望もあり、メンバーが確認しやすいようにホーム内に職員紹介の写真が掲示されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されているが、職員は出来るだけ直接話してもらえるように家族とのコミュニケーションを大切にしている。家族から出された意見等については迅速に対応している。苦情処理についての措置概要があり、ホームの常設窓口担当者名がきちんと明記されている。	○	意見箱の設置場所は、もう少し目立たずに家族がさりげなく利用できるようにひと工夫されたい。家族とのコミュニケーションは十分に図られていると感じられたが、苦情処理についての措置概要についてもホーム以外の第三者機関、解決責任者の表記がされることでさらに機能していくと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職があった場合には、引き継ぎにゆとり時間を掛け、利用者が自然に慣れていくように前任者と後任者が連携をとったり、新しい担当者に顔見知りの職員がサポートについたりするなど利用者の混乱を招かないような配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合わせた研修に参加している。また勤務体制の関係からなかなか全員が参加出るとは限らないことから、管理者クラスを対象に一年間のカリキュラムを組み、研修に参加した管理者からの報告を兼ねて他の職員が講義を受け、情報の共有化を図っていくシステムが始められたところである。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の事業所とは年間の行事等を通じて定期的に交流しており、情報交換が行われている。またレクリエーション活動の参考事例を学ぶために、法人外のホームへの見学を依頼し訪問するなど積極的にサービス向上のための取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	複合施設内のデイサービスやショートステイサービスを利用しながら、徐々に、ホームでのサービスに馴染めるよう配慮されている。一日体験も可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として認識しており、日々尊敬の念を以て接している。また、毎日の関わりの中で、お互いに支えあう関係であると感じている。食事のメニューや調理法でアドバイスをもらえるなど昔からのしきたりや知恵や知識を利用者から学んでいる様子がうかがえる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の食事や外出の希望などをじっくりと聴き、可能な限り意向に沿うよう職員全員の対応がなされている。なかなか意向を表すのが難しい利用者とも時間をかけてコミュニケーションを図り、答えが出てこない場合は申し送りをし、利用者の気持ちを把握できるまで引き続き丁寧な対応がされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	長谷川式を活用し、利用者本人や家族からの希望や思いを十分に聞いている。必要に応じて看護師も参加しての月一回のミーティングにて職員同士が話し合い、ケアプランを作成している。また、かかりつけ医の意見もプランに反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプランは3か月ごとに定期的な見直しが行われている。日々の記録からプランに合わせたチェック表が整理されており、職員の気づきを記録する個別シートからの情報とともに一ヶ月ごとに評価が行われ、プラン見直しの参考となっている。また、この見直し期間にこだわらず、日々のケアの中で利用者の様子をチェックし、問題点があれば職員同士、利用者や家族とも話し合い対応を検討しての変更も行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	車いす等の必要なものを必要に応じて使用するなど、複合施設の機能を生かした対応が可能となっている。事業所としてはまだショートステイの対応は出来ないが、希望があれば家族の宿泊を受け入れることも可能となっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医へ継続して通院しているが、月一回は事業所の協力医療機関の往診がある。緊急時は施設長付添いのもと受診している。いずれも受診後には家族への報告が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日ごろから家族や主治医と重度化した場合の対応について話し合いながら、手術の同意書などを準備している。今後は終末期に向けての対応や看取りも検討していく意向である。現在、職員同士で話し合いを重ねている段階であり、ホームとしての具体的な体制づくりには至っていない。	○	今後さらなる高齢化により、ますます利用者の状況も日々変化していくことが予想される。重度化・終末期対応マニュアル等の整備や終末期におけるケアについての家族の同意書の作成など、出来るだけ早い時期の実現が望ましいと感じた。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者に対し敬意を払い、言葉掛けや対応が不適切であると感じた場合は、職員同士で注意をし合うなど徹底されている。記録物の個人情報の取り扱いについても、きちんと事務室に保管されており細心の注意が払われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間等は利用者のペースが優先されている。利用者の表情や気持ちや体調を配慮しながら、リビングでのレクリエーションや体操・イベントへの参加が無理のない程度で促されている。基本的には利用者の希望が最優先されるよう支援が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の希望やアイデアで作成され、個人に合わせた対応もなされている。できるだけ毎食ごと準備の手伝いを利用者に行ってもらえるよう支援している。食事は可能な限り職員も同席し会話を楽しんでいる。月一回程度の外食の機会を設けているほか誕生会や初詣、クリスマス会など食を通じたイベントが行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じてほぼ毎日全員が入浴している。時間帯は特に決めず、一人ひとりがゆったりと入浴できるよう午前中から対応している。入浴時を利用者との大切なコミュニケーションの時間と捉え、じっくりと利用者の声に耳を傾けながらの支援が行われている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴を把握した上で様々な支援をしている。利用者がそれぞれの気分に合わせてピアノや童謡を楽しんだり、秋祭りに展示する作品づくりをしたり、外気浴をしたりと張り合いや喜びのある毎日を送れるようサポートが行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩の希望があれば、職員が1対1で対応している。散歩は施設の周りを何回かに分けて行われている。利用者の気分転換が必要な時も1対1で散歩に出ている。中庭へも自由に出入りが可能となっており、気軽に戸外の空気が吸えるようになっている。今後は、すぐ近くの公園へ昼食を兼ねて散歩に出る計画もあり準備が進められている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面玄関は幹線道路に面しているため、1日中施錠されている。その他は中庭への出入りも含めて昼夜問わず施錠せず自由に行き来出来るようになっている。中庭への出入り口はリビングから職員が利用者の様子を窺えるような作りとなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定、通報訓練も含めた定期的な避難訓練が、年2回実施されている。非常用の食料については、複合施設全体で確保されている。今後は火災以外の災害対策についても所内で話し合い、職員の意識を高め、対応マニュアルづくりや訓練の実施、地域との協力体制の具体化等を徐々に進められるようにしていくとの意向である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態の把握のために、食事量や水分等がチェックされている。食事量、水分量はバイタルと共に整理されており、利用者の日々の健康管理やケアに役立てられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関等には季節の飾りがあり、家庭的である。その他の共用部分も利用者が居心地良く過ごせるよう広々としたレイアウトになっており、清潔に保たれている。台所からはリビングの様子が窺える作りとなっている。食卓以外にも中庭を眺めながらゆっくり過ごせるくつろぎのスペースが設けてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が馴染みやすい畳の部屋となっている。利用者一人ひとりの状態に合わせて、使い慣れた家具や備品が持ち込まれており、それぞれの時間を自宅にいるような気持ちで過ごせるよう配慮されている。		